

## 特別寄稿

### 「底力」を高める

日本銀行前橋支店 支店長 相良 雅幸



新年明けましておめでとうございます。旧年中は、日本銀行前橋支店の業務につきまして、ご支援ご協力を賜り、誠に有難うございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、今年の県内経済は、回復の動きが広がった1年でした。円安や堅調な米国経済を背景に輸送用機械の輸出や生産が増加を続け、その増産効果は関連の部品・部材を製造する鉄鋼・非鉄金属や化学などの業種にも広がりました。低迷を続けていた電気機械も、円安やスマートフォン需要の増加を背景に輸出や生産が持ち直しました。また、公共投資や住宅投資の増加も景気回復の動きを後押しし、建設関連の景況感が好転しました。ただ、原材料高を価格転嫁できない先では業況の低迷が続いており、留意が必要です。

先行きの県内経済は、内外の需要がバランスよく増加するもとの、緩やかな回復を続けることが期待されます。輸出は、海外経済の持ち直しを背景に増加が続くと考えられます。もちろん、米国における財政問題や欧州債務問題の帰趨、中国における構造改革の行方など不確実性が大きいことには、引続き留意が必要です。内需については、個人消費が消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響を受けつつも雇用・所得環境の改善を背景に底堅く推移すると見込まれるほか、設備投資についても企業収益の改善を背景に緩やかな増加傾向をたどるとみています。

県内経済が中長期にわたって持続的な成長を続けていくためには、産業基盤を強化し県内経済の成長力を高めていくことが不可欠です。県内では、太陽光発電設備の導入や医療・福祉施設の新設などがみられています。こうした企業の前向きな動きに対し、金融機関には金融仲介力を適切に発揮していくことが求められます。日本銀行は、「量的・質的金融緩和」を推し進めるとともに、引続き成長基盤強化支援や貸出増加支援の資金供給などを通じて、金融機関の貸出業務を支援していきます。日本銀行前橋支店としましても、県内経済の発展に資するよう、安定的かつ円滑な業務運営を続けていく所存です。

今年の干支「午（うま）」は、飛躍など縁起のよい言葉を連想させます。この一年が県内企業の飛躍に必要な「底力」を高める年となることと、皆様のご多幸ご健勝を祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。